

---

# うさたんのやきそばSHOP

魚の卵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

うさたんのやきそばSHOP

### 【Nコード】

N4524U

### 【作者名】

魚の卵

### 【あらすじ】

ここはどろぶつ島のどろぶつ村。うさたんの作る焼きそばは大人気！ところがある日、くまたんから嫌がらせをされて……。果たしてうさたんは無事に焼きそばを作ることが出来るのでしょうか？

以前、自分のブログにも載せていました。

(前書き)

数年前に絵本を作るために書いたものですが、今回挿絵はありません。  
ご了承ください。

ここはどつぶつ島のどつぶつ村

ここではどつぶつたちがのんびりと暮らしています。さて、そのどつぶつ村で今大繁盛しているお店がありました。

『うさたんのやきそばSHOP』です。

その焼きそばは一口食べれば、ほっぺがおちて、二口食べれば翼が生えたようにふわふわと浮いて、三口食べれば天国まで行ってしまうのです。

それが噂になっていつもお店は大忙し。

店長のうさたんは休みもなく働いていました。

そんなうさたんを嫌っている女性がいました。

となり町でうさたんのように焼きそば屋を経営しているくまたんです。

実はうさたんの店が繁盛しているせいで彼女の店にはお客さんが入らなくなってしまったのです。だからくまたんはうさたんのやきそばSHOPを見るたびにとても腹が立ちました。

そんなある日変わったお客さんがやって来ました。

湖に住むかつぱの王様です。うさたんのやきそばSHOPの噂を聞いて、わざわざ1日かけて来たというのです。

うさたんは早速焼きそばを作ろうとしました。

ところがどうしたことでしょう。

冷蔵庫には焼きそばに使う野菜が全くありません。

実は昨日の夜、お店にくまたんが忍び込んで全部盗んでいってしまったのです。

これではいつものおいしい焼きそばを作ることが出来ません。

うさたんが困っていると待ちきれなくなったかつぱの王様は怒り

だしました。

「焼きそばはまだかっぱ？さっさと用意するかっぱよ」

ちょうどその時誰かがお店に訪ねて来ました。

たぬきさんちの奥さんです。奥さんは手にたくさん野菜を持っています。

「野菜がなくて困ってるのならどうぞこれを使って」

「ありがとうございます……。でもどうして野菜をくれるのですかするとたぬきさんちの奥さんはこう言いました。

「先日わたし風邪をひいたの。でもあなたが作った焼きそばを食べたら元気になったの。だからこれはその時のお礼よ」

うさたんはたぬきさんちの奥さんの野菜を使って焼きそばを作りました。

それはとってもおいしかったので、かっぱの王様は大変満足して帰って行きました。

次の日、また変わったお客さんがやって来ました。

火山に住むドラゴンの王様とその家族です。

どうやらかっぱの王様から話を聞いて来たというのです。

うさたんは早速焼きそばを作ろうとしました。

ところがどうしたことでしょう。

海の向こうから取り寄せている秘伝のソースがありません。

実は昨日の夜、お店にくまたんが忍び込んで全部盗んでいってしまつたのです。

これではいつものおいしい焼きそばを作ることが出来ません。

うさたんが困っていると待ちきれなくなったドラゴンの王様は怒りだしました。

「焼きそばはまだ出来んのか？もう待ちきれん。わしは帰る」

ちょうどその時誰かがお店に訪ねて来ました。

渡り鳥のつばめちゃんです。つばめちゃんは手に秘伝のソースを

持っています。

「ソースがなくて困ってるのならどうぞこれを使って」

「ありがとう、つばめちゃん。でもどうして秘伝のソースをわざわざ持ってきてくれたの？」

すると渡り鳥のつばめちゃんはこう言いました。

「この前の秋にあたい南の国まで飛んで行ったでしょ。その途中であたいとっても疲れちゃって無事に着けなかつたの。でもねうさたんさんが持たせてくれた焼きそばを途中で食べたらとっても元気になって無事に南の国まで行けたのよ。だから今日はあたいがうさたんさんのために秘伝のソースを持ってきたの」

うさたんは渡り鳥のつばめちゃんが持ってきてくれた秘伝のソースを使って焼きそばを作りました。

それはとってもおいしかったので、ドラゴンの王様とその家族は大変満足して帰って行きました。

次の日、またまた変わったお客さんがやって来ました。

はるか高い空の上に住む不死鳥です。

どうやら毎日お客さんにぎわっているのを空の上から見て気になったので来たというのです。

うさたんは早速焼きそばを作ろうとしました。

ところがどうしたことでしょう。

機械が壊れていて台所の火がつかみません。

実は昨日の夜、お店にくまたんが忍び込んで機械を壊してしまつたのです。

これではいつものおいしい焼きそばを作ることが出来ません。

うさたんが困っていると待ちきれなくなつた不死鳥は大きなため息をつきました。

「焼きそばはまだなのでしょうか？人気のあるお店のようですが、所詮この程度ですよですね」

ちょうどその時誰かがお店に訪ねて来ました。

昨日ドラゴンの王様と一緒に焼きそばを食べに来たドラゴンの王子様です。

「火がつかなくて困ってるんでしょ。だったらぼくが吐く炎を使っ  
て」

「ありがとう、ドラゴンの王子様。でもどうしてわざわざ来てくれたの？」

するとドラゴンの王子様はこう言いました。

「昨日ぼくお姉さんの焼きそば食べておいしくて感動したんだ。お姉さんの焼きそばは世界一だよ。だからぼくもつといるんなひにお姉さんの焼きそばを食べてもらいたいんだ」

うさたんはドラゴンの王子様が吐く炎を使って焼きそばを作りました。

それはとてもおいしかったので、不死鳥は大変満足しました。

そして帰る前にうさたんにこんなことを言いました。

「あなたが作る焼きそばはとても素晴らしいわ。そうおいしいだけじゃなくてひとを虜にする何かがあるのよ。ごちそうさま、うさたん。また食べに来るわ」

次の日、うさたんのやきそばSHOPにはいつも以上にお客さんがやって来ました。

「どうやら不死鳥も認めた味だという噂が島中にひろまったようです。」

うさたんは今日もまた大忙しです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4524u/>

---

うさたんのやきそばSHOP

2011年6月30日03時25分発行